

信州須坂「蔵の朝市」による「須坂いいとこ発見」事業

取り組みに至る背景・事業の目的

明治から昭和にかけて製糸の町として栄え、「蔵の町並み」が残る商都須坂市において、かつて中心市街地で行われていた「九斎市」(朝市)を「蔵の朝市」として復活させる取組や須坂市が推進する「ホスピタリティ・須坂」運動の実践を通じて、中心市街地ににぎわいを取り戻し、活性化を図るほか、観光客の市内回遊性の向上を目指す。

事業内容

須坂市内のまちおこし団体や近隣農家、地元商店、高校生と毎月第2日曜日「信州須坂・蔵の朝市」を開催している。地元産の採れたて野菜やフルーツを販売する「軽トラック満載市」や軽食を提供する「まちなかゆったりランチコーナー」、包丁砥ぎ等を行う「生活応援コーナー」・高校生による販売コーナー「須商まちかどSHOPくますぎ」、須坂の季節料理を提供する「須坂食ごよみコーナー」など、多様なコーナーを設けるよう工夫するとともに、ノーレジ袋運動も展開しエコ活動にも努めている。



【信州須坂・蔵の朝市】

また、観光客等にお茶をおもてなしする「寄っ茶って」、トイレを貸し出す「寄っといれ」、たばこを一服できる「吸っとくらい」、笑顔でもてなす「笑～顔(え～かお)してます」の4種類のシール、「おもてなしのまちすざか」シールを作成し、協力店、協力施設に配布・貼付し、「ホスピタリティ・須坂」運動を実践している。

事業効果

定期的に「市」を開催することで、市内外からの視察や問い合わせもあり、須坂の知名度アップに貢献したほか、リピーター客や旅のお客様等にもお越しいただき、日曜日に閉店していた商店も店を開けるなどの効果があった。

また、「蔵の朝市」の開催や「おもてなしのまちすざか」シールの作成を通じて、個々にまちおこしで活動していた団体、個人、商店等の協働・連携が推進され、地域のネットワークづくりにもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

定期的開催のポイントは、内容のボリュームと参加者の忍耐。利益追求で参加した人たちは1回の売り上げで次回を判断し、参加してもらえない。「定着するまでには3年はかかる」「1人でも楽しみに来てくれるお客さんがいたらやめることはできない」と励ましてくれる参加者がこの朝市の中心的協力者として事業を支えている。

スタッフや参加者、商店街との連携、一緒に作り上げていくという協働意識、内容のボリュームアップ、特徴付け等を参加者全員で試行錯誤し、中心市街地の活性化にさらに尽力するとともに、他商店街への朝市の拡大を図り、毎週須坂のどこかで朝市が開催されている形態を作りたい。

【選定のポイント】

市街地活性化へつながったほか、市内各団体との連携も拡大し、事業の定着化も図られた。

団体名	NPO法人NEXT須坂(須坂市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	TEL・FAX 026-248-8066	事業費	1,739,838円
	http://blog.suzaka.ne.jp/next	支援金額	1,675,000円